



のびのこちゃん

あ お だ け



令和6年2月29日 3月号

たけまるくん

おも う つ 想いを 受け継いで

こうちょう いまむら きみこ
校長 今村 公子

かんだんさ おお がつ かくち まんかい かわづざくら み はる いっぽいっぽちか
寒暖差の大きい2月でしたが、各地で満開の河津桜を見ると、春が一步一步近づいてい
るのわかります。ことし さくら (ソメイヨシノ) の開花も かいか へいねん すこ はや
今年の桜(ソメイヨシノ)の開花も 平年より少し早くなりそうです。

ゆずり葉

河合 酔茗

子供たちよ
これはゆずり葉の木です
このゆずり葉は
新しい葉ができる
入れ替わってふるい葉が落ちてしまうのです

こんなに厚い葉
こんなに大きい葉でも
新しい葉ができると無造作に落ちる
新しい葉にいのちをゆずって

子供たちよ
お前は何もほしがらなくても
すべてのものがお前たちにゆずられるのです
太陽のめぐる限り
ゆずられるものは絶えません

かがやける大都会も
そっくりお前たちがゆずり受けるのです
読みきれないほどの書物も
みんなお前たちの手に受け取るのです

幸福なる子供たちよ
お前たちの手はまだ小さいけれど

世のお父さん お母さんたちは
何一つ持ってゆかない
みんなお前たちにゆずってゆくために
いのちあるもの よいもの 美しいものを
一生懸命に造っています

今 お前たちは気が付かないけれど
ひとりでのいのちは延びる
鳥のように歌い 花のように笑っている間に
気が付いてきます

そしたら子供たちよ
もう一度ゆずり葉の木の 下に立って
ゆずり葉を見る時がくるでしょう

さて、いよいよ3月、令和5年度も残りひと
つき がつ れいわ ねんど のこ
月となりました。3月になると、6年生は卒業
む いっそうき も ひ し
に向けて、一層気持ちが引き締まってくるよう
になります。わたし は、この時期になると思い出
すことがあります。それは、私が教員になっ
て2年目のとき、当時の6年生が各学級に回
ってきて、卒業する自分たちの思いとともに
こくご きょうかしょ の し ろうどく
国語の教科書に載っていた詩の朗読をしてく
れたのです。「ゆずり葉」という詩です。この
し はゆずり葉の木は若芽が出たあとに、それま
での葉が譲るように落葉することから、親から
子へ、ひとひと受け継いでいく、おもいをつない
でいるという詩です。卒業する6年生が
ざいこうせい む たいせつ ゆず わた たく
在校生に向けて、大切なものを譲り渡し託すと
いう気持ちを込めて朗読をする真剣な姿を今
でも思い出します。

こ どもたちや保護者、地域の方々と一緒にこ
れまで築き上げてきた竹山小学校への想いを
たいせつ し、これからも進んでいきたいと思いま
す。今年度も皆様の
りかい きょうりよく
ご理解とご協力に
こころ かんしゃもう あ
心から感謝申し上
げます。

